平成２９年度　第２２回障がい者就労支援ネットワークセミナーが終了しました。
このセミナーは、平成１９年の当センター開設当初より、「どの地域にいても相談が受けられる体制作り」の一環として、就労支援に関する巡回相談と、地域の特徴的な取り組みや話題提供などを通して、情報交換・課題整理・活動のきっかけ作り・顔の見える関係づくりを行うことを目的として、開催しています。

★１月２６日（金）東十勝エリア（浦幌町開催）では、池田町の就労支援センターこんぱすでの就労支援について、就労支援センターこんぱす　主査　今野聖仁氏に通勤寮時代からの就労支援の取り組みの歴史や、就職された方々についての現状と、その後の定着支援の方法などをお話いただきました。

グループホームから帯広市内に通勤されている方もいて、夜遅くに帰宅せざるを得ないなどの十勝管内の移動手段の課題について、参加者の皆様と共有することができました。
定着支援に関しては、職場の巡回やご本人との面談を通して、必要な支援を行っているとのことでした。職員が実際に職場へ出向き作業内容を確認して、ご本人にマッチしそうかを把握した上で再度利用者と職場訪問しているという、就労支援に大切な部分のお話もお伺いできました。さらに、事業所利用者の「高齢化」という、どこの事業所でも起こっている課題から、住み慣れた町や地域でずっと暮らしたいというご本人の希望を叶えるための将来の構想もお話しいただきました。

★２月１９日（月）西十勝エリア（芽室町開催）では、芽室町の就労支援をテーマに芽室町役場障がい福祉課　係長　吉川泰子氏、芽室町役場商工観光課　係長　我妻修一氏、ＮＰＯ法人プロジェクトめむろ　濱野達也氏からお話いただきました。

芽室町での発達支援システムの普及や、障がいのある方に向けた実習や雇用の取り組みについて、芽室町とＮＰＯ法人プロジェクトめむろとの関わりをお話いただきました。
「自立してこの地域で生きていく」という思いを実現しつつある内容を、参加者の皆様と共有することができました。また、町が実施した企業へのアンケートの結果も詳しく教えて頂き、雇用側の気持ちを知ることができた機会となりました。

★２月２０日（火）東北十勝エリア（陸別町開催）、２月２６日（月）南十勝エリア（大樹町開催）では、「こんな相談があった場合どうしますか？」というテーマで、事例を通して地域課題や、相談のあり方についてグループワークをしました。

その中で、一口に『年金の相談をしたい』という内容であっても「すぐに年金課へつなげる」のではなく、「なぜ本人が年金を受給したいのか」ということに着目し、その言葉の背景にはどんな意味が隠れているのか、まず立ち止まって話を聞いてみることが大切であること等がグループの中で話題となりました。小さい町だからこそ、役割を分けた縦割りの対応ではなく、まず聞いてから次につなげていくことが大切であることから、改めて『連携』ということを共有できたのではないかと思います。

★２月２８日（水）北十勝エリア（上士幌町開催）では、社会福祉法人更葉園の活動についてを、障がい者支援部門　総合施設長　三浦　昭博氏にお話しいただきました。昭和３０年設立当時から現在に至るまでの沿革をお話いただき、開設当時からの思いを知ることができました。

　利用されている方の一般就労にむけて、作業活動を基に本人の出来ること・苦手なことを把握されて、プログラムを組む工夫をされていることについて参加されている方と共有することができました。また、障がいのある方の高齢化とそのあとの受け皿が少ないという課題を考え、「共存・共栄」ができる事業所づくりを目指し、現在も作業活動の変更を行いながら利用する方の変化に寄り添い、運営をされているとのことでした。

今年度の就労支援ネットワークセミナーはこの回で終了となります。
今後も、地域のつながりや社会資源の少ない町村での就労支援についてなどを皆様と共有し、活動のきっかけ作りのお手伝いができればと考えております。
また、次年度ネットワークセミナーで取り上げてほしい内容などございましたら、お気軽に当センターまでお問い合わせください。
次年度の開催内容については、またご案内いたします。
今年度、話題提供者としてご協力いただきました皆様、参加して頂きました皆様、ありがとうございました。

だいち　井戸川